

こくう そう りゅう
虚空奏龍

大本山永源寺法堂の天井画
奉納されたブライアン・ウィリアムズさん

情報紙 第118号 2025年 1月 1日

編集・発行：永源寺地区まちづくり協議会 東近江市山上町 1316 番地 永源寺コミュニティセンター内
IP：050-5802-9336 http://members.e-omi.ne.jp/e-net6500/ E-mail：e-net6500@e-omi.ne.jp

みんなの ふるさと祭り



11月10日、永源寺コミュニティセンターで、みんなのふるさと祭りが開催されました。館内では、子どもたちや文化サークルの作品展示や演奏会をはじめ、ものづくり体験、アトラクションなどが行われました。また、屋外では地元野菜や特産品販売のほか、キッチンカーも出店し、大勢の来場者でにぎわいました。

キッチンカーも出店。うどんやカレーライスなど、美味しいものがいっぱい。



消防車も出動。警察による交通安全啓発も



サークル活動の作品や子どもたちの作品展示



今年のアトラクションはバルーンショーとキッズダンス 子どもたちで大にぎわい



2025年開催の国スポ・障スポのPR 健康推進員さんによるベジチェック



お茶会 文化団体の芸能発表

編・集・後・記

明けましておめでとうございませう。新しい年が始まりましたが、みなさんはどんな新年をお迎えでしょうか。昨年は、元旦早々に能登半島地震が発生し、その後も大雨による災害等が各地で頻発するなど、心を痛める一年でした。その一方で、パリオリンピック・パラリンピックをはじめとする各種スポーツ競技において、選手たちの活躍に大きな感動と勇気をもらった年でもありました。

私自身、年金を受給する歳になり、健康で新年を迎えられることのあるがたみを痛切に感じるようになってきました。地球温暖化による災害等への不安や不安による物価高騰の中で、毎日を笑顔で過ごせるようにするにはどうしたらいいものかと日々考えております。

以前、誰かが「楽しい人生は送れなくても 楽しく人生を送ることはできる 美味しいものを食べることはできる」と言っていたのを思い出します。気持ちの持ちようや視点を変えるだけで、今までとは違った時間を過ごせるのではないかと考え、第二の人生を歩んでいる者としては、心に余裕を持って、「楽しく生きること」を目標に、この一年を過ごしていきたいと思っております。本年もよろしく申し上げます。(き)

こんにちは保健師です 24

インフルエンザから 身を守るためには？

新年を迎え健康に過ごすために、まずインフルエンザから身を守るために大切なことをあげてみました。



①正しい手洗い

私たちが触れるいろんなものに、ウイルスが付着している可能性がありますので、帰宅時や調理の前後、食事前など、こまめに石けんで手を洗いましょう。手洗いの前に爪を短く切り、時計や指輪を外すことも大切です。

②ワクチン接種

インフルエンザワクチンを打つことで発病の可能性を減らすことや、重症化を予防することが期待できます。

③十分な休養とバランスのとれた栄養摂取

体の抵抗力を高めるために、十分な休養とバランスのとれた栄養摂取を日頃から心がけましょう。

④適度な湿度を保つ

空気が乾燥すると、のどの粘膜の防御機能が低下します。加湿器などを使って適切な湿度(50~60%)を保つことも効果的です。

⑤人混みや繁華街への外出を控える

外出するときはある程度、飛沫感染等を防ぐことができる不織布(ふしょくふ)製マスクを着用することは一つの防御策と考えられます。

⑥室内ではこまめに換気する

一般家庭でも台所・洗面所の換気扇により、室温を大きく変動させることなく換気を行うことができます。

インフルエンザに感染しても熱が出ない場合もありますので、体調不良の時は無理をせず、受診をしましょう。



東近江市 健康づくり

永源寺地域が登場する本・雑誌

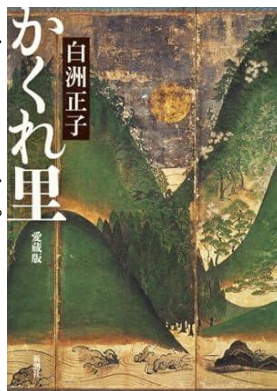
永源寺図書館提供

『かくれ里』

白洲 正子 著／新潮社

日本の美をこよなく愛した白洲正子。各地の「かくれ里」を訪ね歩き、そこに残された美しいものとの出会いを綴った本書は、彼女の代表作でもある名著です。

本に出てくるかくれ里のひとつに、木地師の里、小椋谷周辺があります。この地に伝わる風習や、惟喬親王伝説、能面に触れながら、彼女は山の奥へと足を進めます。永源寺地域の美しさと魅力を再認識せずにはられない一冊です。

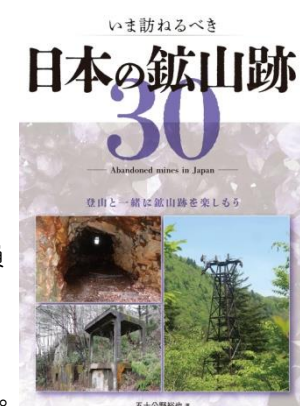


『いま訪ねるべき日本の鉱山跡30』

五十公野 裕也 著／イカロス出版

かつて日本全国の至る所に鉱山がありました。本書ではその中のひとつ、鈴鹿山系にあった御池鉱山が、「魅力ある遺構が残る銅山跡」として紹介されています。

明治から大正にかけて、滋賀県有数の銅鉱山として採掘が進められ、最盛期には200人もの従業員が働いていたそう。現在は鉱山施設跡や神社跡の石垣、校舎や社宅の跡地が残っており、豊富な写真とともに詳しく案内されています。



まちの話題



老いても安心、楽しく暮らし続けるには 永源寺みらい会議で意見交換会



地域のまちづくりに関わる団体がつながりあって将来を考える「永源寺みらい会議」が11月28日、永源寺コミュニティセンターで開かれました。

会場には、地区内の自治会ははじめ、21団体から65人の方が参加されました。

冒頭、やすらぎの里ケアプラザのケアマネさんと市社会福祉協議会職員から「老いても安心して楽しく暮らし続けるために」をテーマに、専門的な立場から永源寺の現状や課題について話題提供がありました。次に、参加者は8グループに分かれ、課題解決のため何が必要かなど、熱心な意見交換があり、地域のつながりの大切さを再確認されました。

永源寺に新たな魅力、銀河と龍の天井画 米国人画家フライアンさん奉納



大本山永源寺に、風景画家フライアン・ウィリアムズさんの描かれた虚空奏龍(こくうそうりゅう)が奉納され、10月1日に点眼法要が営まれました。

京都の天龍寺や妙心寺などの雲龍図に魅せられ、いつかは描きたいとの想いと永源寺の方丈の奉納画との縁で、この度夢が実現しました。

禅の龍を、宇宙を生み出し続ける根本的なエネルギーの象徴とし、龍が銀河から生まれ、円からはみ出した「ドラゴンボール」で新たな宇宙の誕生を意味しているそうです。令和の龍が見つめる眼には、新たな永源寺の名所として多くの方に感動と未来を投げかけています。

3年目の寄せ植え教室 好評で参加者も増える



まちづくり協議会の環境部会では、「花いっぱい運動」として寄せ植え教室を開催しています。

今年で3回目となり、年を追うごとに参加者が増え人気の事業となっています。地元の花屋さん可愛い花をチョイスしていただき、植え方から植木鉢の設置場所、水や肥料のやり方などを教えていただきました。講師の方の軽妙な語り、受講者は心が和み、和気あいあいとした教室になりました。寄せ植え教室は、花も人も寄せて心を込めてものですね。これから初夏まで咲く花は、きっとご家庭や公共の施設の玄関を華やかにしてくれ、道行く人を楽しませてくれると思います。

もみじっこ、夢や思いを堂々と発表 青少年育成大会に150人が参加



「地域で育てよう心豊かなもみじっこ」をスローガンに、青少年育成大会が11月2日、永源寺コミュニティセンターで開かれ、青少年の育成に関わる団体や地域の方など約150人が参加されました。大会では、永源寺地区の小・中学生7人が日常の中で考えていることや将来の夢、こんな世の中になってほしいなど、それぞれの思いを堂々と発表されました。続いて行われた表彰式では、地域ボランティアとして青少年活動に貢献された方の顕彰や、あったかメッセージコンテストで15人が表彰されました。この日、永源寺もみじ幼児園5歳児の皆さんも元気な歌声で大会に花を添えられました。

■新車・中古車販売 ■車検・一般整備 ■钣金・塗装

久田モータース

車のことなら、お気軽にお問い合わせください。

スズキ自動車代理店
三井住友海上火災保険株式会社
JA 共済指定工場

〒527-0231 東近江市山上町 3668
TEL 0748-27-1128
I P 050-5802-8226

8分割された大正時代の忠魂碑(一式町)



合併してもうすぐ20年 東近江市のいいところ発見しよう 布引掩体壕、冲原神社、県立平和祈念館など 東近江市に残る戦争遺跡を訪ねる

布引丘陵にある掩体壕を見学



まちづくり協議会では「東近江市のいいところ発見事業」の2回目の催しを10月17日に行いました。
この日は「東近江市に残る戦争遺跡を巡る」をテーマに、東近江市戦争遺跡の会の山本享志さんと市博物館構想推進課の嶋田直人さんに案内していただきました。
まず、一式町のかみかど公園にある8分割された大正時代の忠魂碑や、石谷町では米軍の戦闘機の機銃掃射により小学生の兄弟が犠牲になられ、今も残るその時の機銃弾の弾丸痕を前に

話を聞きました。
このあと、布引掩体壕と呼ばれる軍用機を攻撃から守る目的で作られたドームの様な施設を見学しました。およそ100年前には、陸軍の八日市飛行場があり戦闘機の発着に使われていましたが、今は住宅地などになっています。その飛行場の門柱が移築されている冲原神社では、当時の戦闘機のパイロットが搭乗前に神社で安全祈願をしていたことが紹介されました。また、中里町では、終戦直前にアメリカの戦闘機と接触し戦死された小原少尉の碑を見学。最後に訪れた平和祈念館では、学芸員の方からのお話や戦没者の遺品などの資料により平和の尊さを実感させられた一日となりました。



陸軍八日市飛行場跡に鎮座する冲原神社



藤切神社での参加者とスタッフとの集合写真

地域のことを知り、地元の人と触れ合うことを目的に永源寺福祉の会が、毎年実施している『地域を知ろう』のイベントが10月26日にあり、今年も甲津畑町を訪問。参加者は、地元自治会や「甲津畑みらい会議」などのスタッフから心温まるおもてなしを受け、町内を楽しく散策し、交流も深められました。

開会式の後、奈良時代に創建



(上) 見聞きするだけでなく、コースター作りを体験する参加者
(左) 織田信長が馬を繋いだと伝わる松の説明を受ける

されたと伝わる藤切神社へ移動。厳かな神殿の前で宮役さんから詳しい説明を聞かせていただき、次に信長が馬を繋いだ勅六左衛門の松や蓮如上人ゆかりの浄源寺の歴史について現地説明がありました。
地元の方手作りの豚汁が振舞われた昼食後は、「甲津畑みらい会議」の活動紹介や意見交換。また、「山崎工房」ではコースター作りを体験し、思い出深い一日となりました。

永源寺福祉の会主催 地域を知ろう！ まち歩き 甲津畑町のおもてなしに充実の一日

クローズアップ☆

フロー ファーメンテーション

クラフトビール醸造本格稼働



醸造タンクの前で説明する代表の大西康平さん

案山子で有名な山上新田から、まちおこしの新たなムーブメントが巻き起ころうとしています。
「フロー・ファーメンテーション」。東近江市で栽培したホップを使ったクラフトビールの製造が11月から本格稼働しました。
経営するのは30歳の若手醸造家3人。社長の大西康平さんは、「3人とも20代の頃から長浜のクラフトビールの製造に関わり醸造を学び、意気投合して起業を約束しました。その後、それぞれが海外や国内の各地でホップ栽培や醸造の技術



自家製のホップ

を学び準備してきました。3人が出会った滋賀県を起業の候補地に決めて、ビール特有の「苦味」と「香り」を付けるホップづくりのために、まずは山上町の農地を借りてライ麦を栽培することにし、さらに、東近江市に移住して醸造所の物件探しや資金調達を。正直、苦難の連続でした。資金調達のために、クラウドファンディングも企画しました。多くの方の温かい支援もいただき、ようやく開業にこぎつけられたというのが実感です」と、話されました。



ホップ栽培の農園

本格稼働を記念して、11月16日には、「東近江にクラフトビールを広げる会」が呼び掛ける試飲会が醸造所で行われ、集まった20人ほどの参加者は、6種類のビールの苦みや香りを味わいながら、自分好みのビールを探しておられました。
現在は、樽ビールを中心に製造し、東京や大阪などの飲食店に卸しておられ、1月からは缶ビールの製造販売も予定されています。ホップの自社栽培にこだわり、「近江の味を多くの人に味わっていただき、感動していただきたい」と、夢を語られました。



どれも洒落な6種類のビールのラベル



営業時間: 11:00 ~ 23:00
定休日: 毎週火曜日
TEL: 07044103264
滋賀県東近江市永源寺高野町325



SOUP BAR JURA 汁羅

ライトアップの永源寺で 癒しのともしびミニライブ 鈴鹿壺番太鼓の迫力ある演奏も



太鼓の音が境内に響き渡る



11月23日、ライトアップされた大本山永源寺でともしびミニライブを開催しました。この日だけの特別な演出として、境内周辺に800個の灯籠が並べられ、紅葉のライトアップとともに、幻想的な雰囲気がありました。ミニライブでは、二胡とギターの音楽ユニット「ケール」さんによる心癒される演奏と、「鈴鹿壺番太鼓」の迫力ある演奏が披露されました。始まる1時間前から席に座る方も多く、たくさんの方に楽しんでいただきました。



河辺に並べられた灯籠

また、永源寺高野町や永源寺相谷町の皆さんには、日度橋から総門まで灯籠を並べていただき、特に日度橋から見えるハート形の灯籠は大人気でした。灯籠のやわらかな光に包まれた一夜限りの特別な時間でしたが、多くの方にお越しいただきました。



二胡とギターユニット「ケール」さんの演奏

まちの話題



3会場で金属の大型資源回収 回収量は年々減少の傾向



今年も自治会連合会とまちづくり協議会の合同で、金属の大型資源回収を行いました。

10月26日に東部・中部会場で、11月16日に西部会場で実施し、回収できた資源は6,110kgでした。

年々、回収量は減少しており、回収業者は「この地域も減少傾向ですが、永源寺地区はその傾向が顕著です」と話されます。家電リサイクル法の影響もありますが、農機具等も減少しており、非農家が増えているともいえます。



本当にタダでもらっているの？ 資源譲渡会、大好評で終わる



資源を大切にしているまちづくり協議会の環境部会では、11月10日、みんなのふるさと祭り第3回資源譲渡会を行いました。

今回は、秋冬物の衣料品と洗剤やタオル類、未開封で賞味期限内の調味料などに限定して実施しました。朝8時から9時の間にたくさんの方が資源を持ち込んでくださり、祭りのオープニングと同時に譲渡会のテントは大にぎわいとなりました。

「代金は？」「本当にタダでもらっているの？」「寒くなってきたので、このまま着て帰っていいの？」など、たいへん喜んでいただきました。譲渡していただいた方々、ありがとうございました。

国内最古級の土偶の興味津々 永源寺中学校で地域学習講座



10月11日、コミュニティセンター主催の地域学習講座が、永源寺中学校1年生を対象に、同校のユニティハウスで行われました。

講師は東近江埋蔵文化財センターの杉浦隆支さんで「相谷熊原遺跡 遥かなる縄文文化の芽吹き」と題して、東近江市内の遺跡について説明がありました。特に相谷熊原遺跡は、縄文時代草創期の遺跡では滋賀県内初の発掘調査が行われており、この時期としては最も規模の大きい竪穴建物跡や土偶が出土しています。市内で発掘された出土品の紹介もありましたが、土偶は地元で出土した約1万3千年前の国内最古級の貴重な遺物であり、生徒や同席した地域の方も熱心に聞き入っておられました。

地域資源の活用方法について 市長とのまちづくり懇談会



令和6年度のまちづくり懇談会が、11月11日、東近江市役所で行われました。今年は、自治連の正副会長やまちづくり協議会の3役のみが出席し、市長をはじめ、市の職員幹部と意見交換を行いました。意見交換では、計画が進められている森の文化博物館や開駅10周年迎える道の駅、鈴鹿10座やエコツーリズムなど、永源寺地域の魅力あふれる資源の活用について、市の考えを聞くとともに地域からの要望を伝えました。

小椋市長は、「永源寺地域のこれらの資源は、単に観光という分野だけではなく、幅広く捉え活用すべき。森の文化や森林の多様性を東近江市から全国に情報発信していきたい」と語られました。

日本画市民 日名 中路融人さんの作品 「永源寺錦秋」公開

東近江市にゆかりのある日本画家で名誉市民の中路融人さんの作品「永源寺錦秋」が、この秋、永源寺の庫裏の玄関で展示されました。

「永源寺錦秋」は、100号サイズの大きな絵画で、赤や黄に染まった紅葉と永源寺総門が描かれており、上下に金箔を散らし、とても華やかな作品です。

平成16年(2004)に開催された個展「近江十題-中路融人展」に出品されたもので、令和6年から中路融人記念館に収蔵されており、今回初めて公開されました。



初公開の「永源寺錦秋」(1620mm×1120mm)

中路融人 (1933-2017)

京都市出身の日本画家。母の故郷が東近江市五個荘木流町にあり、幼いころから滋賀の自然の中で遊んでいたことから、日本画家として滋賀県内の各地を多く書く。みずみずしく写実的な作風は、湖国の原風景を叙情豊かに表現している。

平成25年(2013)に文化功労者、平成27年(2015)に東近江市名誉市民。翌28年、五個荘の近江商人博物館内に中路融人記念館が開館。